

# 地元・二人の郷土史家が 語り合う

我が心慰めかねつ更級やをばすて山に照る月を見て  
 あやしくも慰めがたき心かな姨捨山の月もみなくに  
 (古今和歌集)  
 君が行く処ときげは月見しつ姨捨山を恋しかるべき  
 (続後拾遺)  
 (やぶしなを直交した歴史物語は  
 全てこの歌から始まる)

## パネルディスカッション

6月28日(土)

午後6時開演

明德寺

(入場無料)

さらしなの古代人は、どこからきたのだろう  
 うか。古代道路の坂「古峠」から見えてくる  
 奈良・平安時代のさらしなの歩み。

千曲川中流域から「科野国」が成立し、歴史は大きく動き出す。  
 やがて「信濃国」に国名の文字が改訂されると、律令行政を司る貴族達  
 が派遣された。彼らは「古峠」を行き交い、都と地方の文化を紹介する。  
 そして奈良、平安の人々の夢とロマンがうまれた。

パネラー

北村主計 戸倉史談会常任幹事

大橋静雄 戸倉史談会事務局長

懇親会 希望者による (要 予約・事務局へ) 会費 1,300円 飲酒の方は徒歩で

主催 更級人(さらんど)「風月の会」 連絡先 (事務局 上水) 276-5933